

長浜企業 景況調査

報告書



実績 2023年 1月～3月

見通し 2023年 4月～6月

今期のトピックス

- ① 新型コロナウイルスの影響
- ② 原材料価格上昇の影響
- ③ DXの取組状況



アプリのご紹介

スマホやタブレットでご利用いただける、長浜商工会議所の専用アプリケーション“長浜商工会議所 News”をリリースいたしました！
 発信した情報を「いち早く」「多くの方に」見ていただくことを目的に作成したアプリです。
 補助金やセミナー・イベント情報等々、情報に更新があるとアプリに通知が届きます☆(要設定なので、ぜひプッシュ通知はONにしてください！)
 健康診断や検定試験などのご案内もございますので、代表や担当の方だけでなく、社員皆さままでご利用いただけたらと思います(^^)

■Android・タブレットをご利用の方→
 Google Play ストアからダウンロード



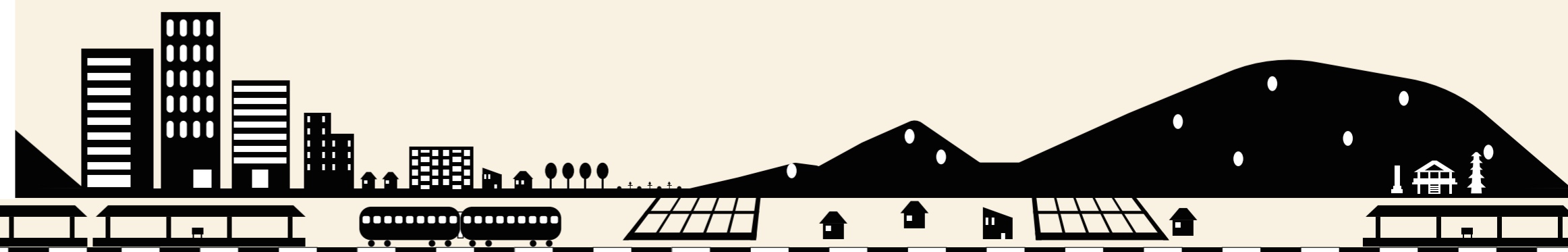
■Iphone・ipad をご利用の方→
 App Store からダウンロード



「長浜商工会議所」とご検索ください(^^)!



 **長浜商工会議所**
 NAGAHAMA Chamber of Commerce and Industry



コンテンツ

01 調査概要

02 今期のトピックス

03 全体の景況感（総括）

04 調査項目別 DI 値

05 業種別業況 DI の推移（長期トレンド）

06 業種ごとの動向 (卸売業・小売業・サービス業・建設業・製造業)

07 設備投資の有無

08 調査項目別 DI の推移

09 その他業種別自由意見

調査概要

長浜企業景況調査について

① 調査対象期間・調査時点

調査対象期間：令和5年1月～3月
調査時点：令和5年4月1日

② 調査方法

長浜商工会議所会員企業220社へのFAX方式・メール方式による調査

③ 調査対象企業数

220社（内訳は右表通り）

④ 報告者

中小企業診断士 川副 郷一郎

	調査対象企業数		有効回答企業数		回収率
	企業数	構成比	企業数	構成比	
卸売業	24	10.9%	14	10.4%	58.3%
小売業	40	18.2%	27	20.0%	67.5%
サービス業	70	31.8%	42	31.1%	60.0%
建設業	32	14.5%	16	11.9%	50.0%
製造業	54	24.5%	36	26.7%	66.7%
合計	220	100.0%	135	100.0%	61.4%

長浜企業景況調査の見方について

DI 指数について

- ① 調査結果を示す指数としてDI指数を採用しています。
- ② 調査項目のうち、「業況（自社）」「売上高」「採算」「資金繰り」「従業員」「販売価格」「仕入れ価格」「業界動向」のDI指数は前期同期と比較しています。
- ③ 「取引の問合せ」と「採算の水準」のDI指数は前年同期比較ではなく調査対象期間の水準を評価した数値です。

DI 指数の見方について

- ① DI指数がプラスであれば好調の企業数が不調の企業数を上回っていることを意味し、プラスの値が大きいほど「好調」の企業割合が多く「景気がよい」と判断されます。
- ② このDI指数を前期、今期、来期とグラフで示すと、その傾向を読み取ることができます。
- ③ 業況DIは経営者の景況感を反映しています。主観的な要素もはありますが、売上高や収益動向で判断される傾向が強いです。
- ④ 資金繰りDIは概ね景気循環と連動していますが、政策の影響が景気の低迷期で認められています。
- ⑤ 小売業は売上高DI、卸売業は資金繰りDIに影響を与えることがあります。
- ⑥ 建設業は季節による影響が業況DIに認められています。これは公共工事との連動のためで1～3月期は総じて低調な傾向となります。

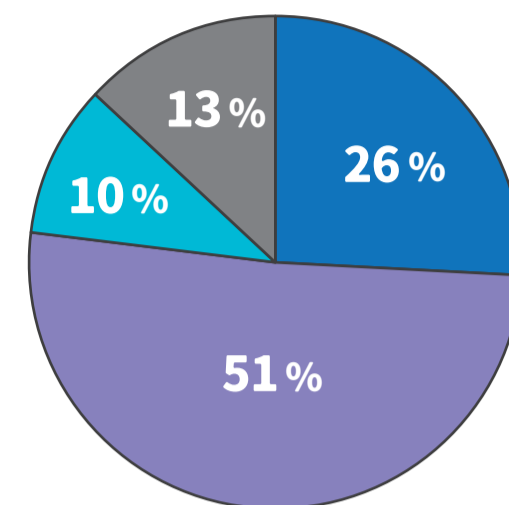
設備投資の見方について

- ① 好景気では「生産力増加」「合理化省力化」投資が増加し、景気の後退期では「設備更新」投資の割合が増える傾向にあります。

今期のトピックス

1. 新型コロナウイルスの影響

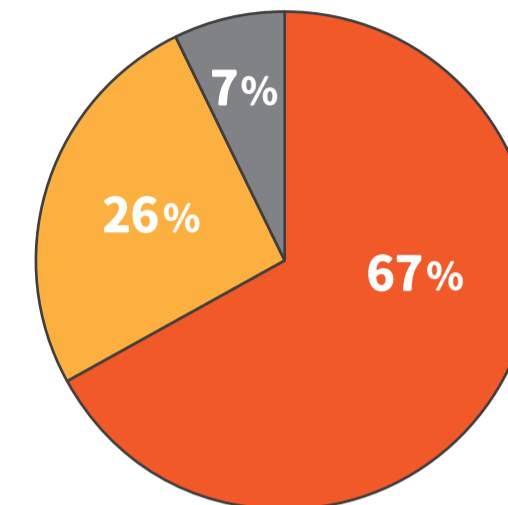
「現在は収束」との回答が前回 29%から今回過半数を超え収束の兆しが見える



●…依然悪影響を及ぼしている ●…悪影響は出たが現在は収束
●…現在は収束しているが今後悪影響が生じる可能性がある ●…もともと悪影響はない

2. 原油等、原材料価格上昇の影響

「悪影響がある」「少し悪影響がある」の合計は前回 93%から今回 94%と依然悪影響が続く



●…悪影響がある ●…少し悪影響がある ●…悪影響はない

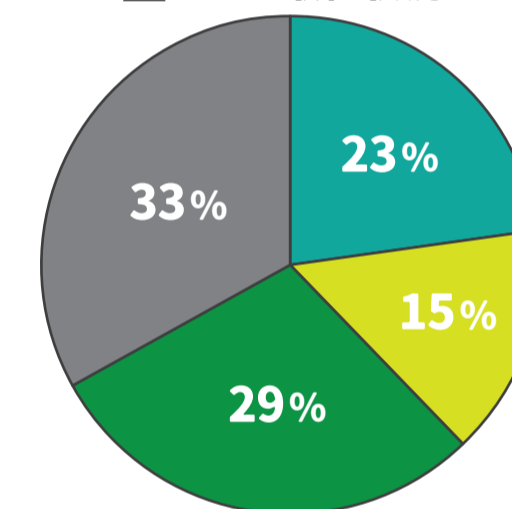
3. DX（デジタルトランスフォーメーション）の取組状況

※DX：ITやデータの活用によって製品・サービス・ビジネスモデルを変革し競争力を高めていくこと

約4割がすでに取り組んでいるか具体的計画あり 課題のトップはデジタル人材不足

- ・DXの取組状況について、「既に取り組んでいる」と「今後具体的に取組む計画がある」の合計は38.3%で、中でも建設業(46.6%)と製造業(45.7%)は高い割合でした。一方、約1/3が「取組む予定はない」と答えており二極化しています。
- ・28.9%が「今後DXに取り組むかどうか悩んでいる」と答え、建設業では53.3%と過半数になりました。悩んでいる原因(課題)で最も多かったのは「社内外デジタル人材不足」で、次いで「DX化の戦略が不明瞭」「費用対効果が得られるか不安」の順でした。
- ・デジタル技術は日進月歩で進んでおり、経営課題や社会課題をDXで解決しようとする流れは強まっています。社内外の人材を活用したDXの取組が期待されます。

① DXの取組状況

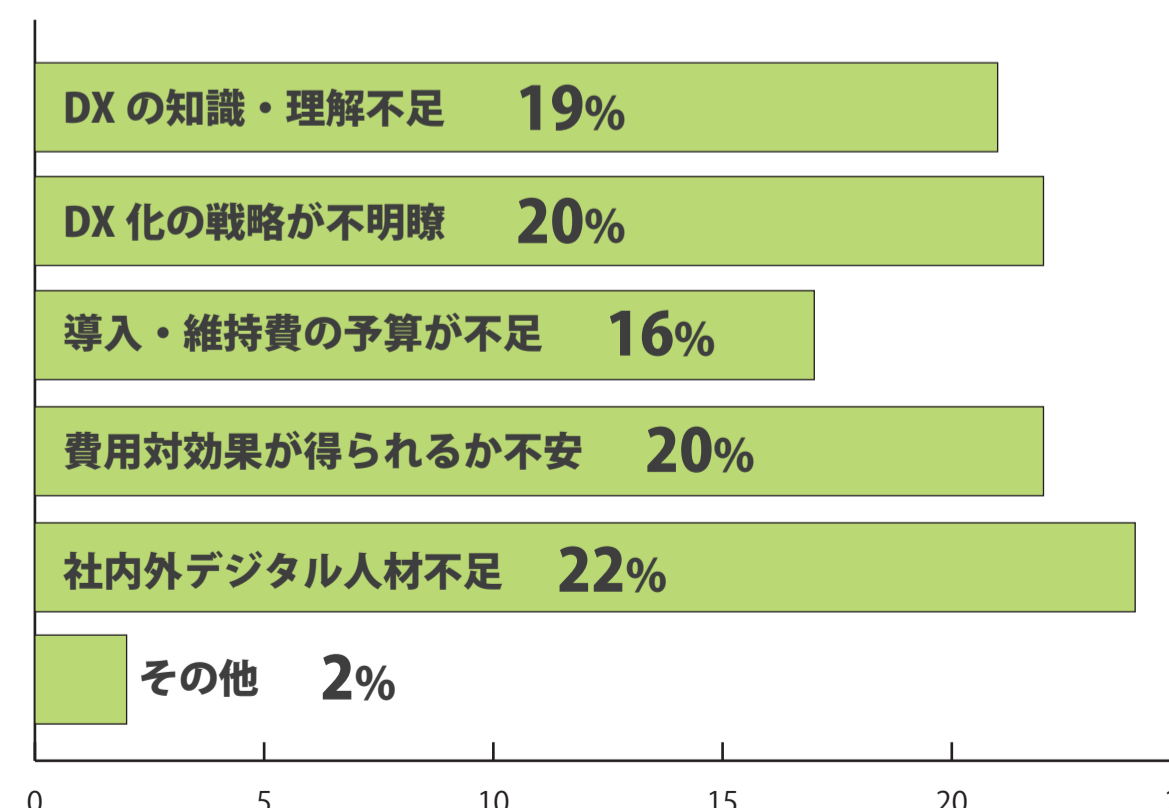


●…既に取り組んでいる ●…今後具体的に取組む計画がある
●…今後取組むかどうか悩んでいる ●…取組む予定はない

② DX 取組事例

- データによる営業管理、IT化による業務軽減。(卸売業)
- レジのPOSレジ化とクラウド化、受注システムのクラウド化と効率化システムの導入。(小売業)
- クラウドソフトを利用してデジタル保存に移行している。(サービス業)
- 社内共有フォルダー、BCPツールの導入。(建設業)
- RPAの活用、作業手順の自動化。(製造業)
- 自動ドアセンサーにカメラを内蔵して、人の流れを分析してシステム展開。(製造業)
- プレス成形シミュレーションの活用。3Dスキャナ活用により、修正工程低減。(製造業) etc.

③ DX化に対する課題



全体の景況感（総括）

「景況感は、緩やかに持ち直している」

全体の業況DIは、前期（2022年10-12月期）の6.1から今期7.4となり2期連続で良化しました。売上高DIはほぼ横ばいでしたが、採算（経常利益）DIが9.4ポイント改善したためと考えられます。業況DIは前期までの2年の間上昇と低下を繰り返していましたが、ようやく上昇かつプラスが続きます。来期（2023年4-6月期）は10.7とさらに良化する見通しとなっています。

全体の従業員DIは、前期の29.7から今期26.9とやや低下しましたが人手不足感はすべての業種で続いています。業種別では、建設業（43.8）、卸売業（42.9）、サービス業（29.3）で全体より不足感が強い状況です。人手不足により売上が増やせなかったり、採用費や人件費といったコスト増要因になっていると思われます。

一方、同時に実施した「設備投資の計画状況」調査によると、設備投資が「ある」企業の割合はやや低下し24.8%でした。投資内容では、景気回復期に強まる「生産力増加」投資と「合理化・省力化」投資の合計が41.2%でやや増加しました。設備投資意欲はやや弱まったものの能力増強投資には積極的な姿勢が窺われます。

業種で景況感に二極化が見られる

業種別に業況DIを見ると、小売業、卸売業、サービス業は良化しましたが、建設業、製造業は悪化しマイナスになりました。新型コロナが落ち着きを見せ始め消費態度が改善してきたことやインバウンドを含めた観光客が戻りつつある一方で原材料価格や電気料金の高騰に悲鳴を上げる業種との格差が表れているといえます。

小売業は、売上高DI（22.2）がコロナ後初のプラスかつ2桁に、採算DI（-3.7）がマイナスながらコロナ後最も低い値に、足元の採算の水準DIがコロナ後初の持ち合い（0.0）になりました。卸売業では、売上高DI並びに採算DIがともにコロナ後初のプラスかつ2桁に、足元の採算の水準DIがコロナ後初の持ち合い（0.0）になりました。

製造業の在庫量DIは前期の23.3から今期13.3と低下したものの4期連続で2桁が続き、取引の問い合わせDIは2期連続で上昇しましたが5.7と低い水準でした。半導体不足が徐々に緩和され部品不足の解消が進みつつあるものの流通在庫をにらみながらの受注状況が続きます。

販売価格DI低下、仕入れ価格上昇、価格転嫁進まず

全体の販売価格DIは、8期連続で上昇していましたが今期低下しました。小売業、サービス業、建設業、卸売業で低下し、製造業のみ上昇しました。一方、全体の仕入れ価格DIは前期からやや上昇しました。販売価格DIと仕入れ価格DIの差から価格転嫁動向をみると、価格転嫁が進んだのは卸売業のみでサービス業、小売業、建設業、製造業では価格転嫁の厳しさが窺われる結果となりました。中でもサプライチェーンの上・中流に位置しコストダウン要求の絶えない中小製造業は最も厳しい状況にあるといえます。

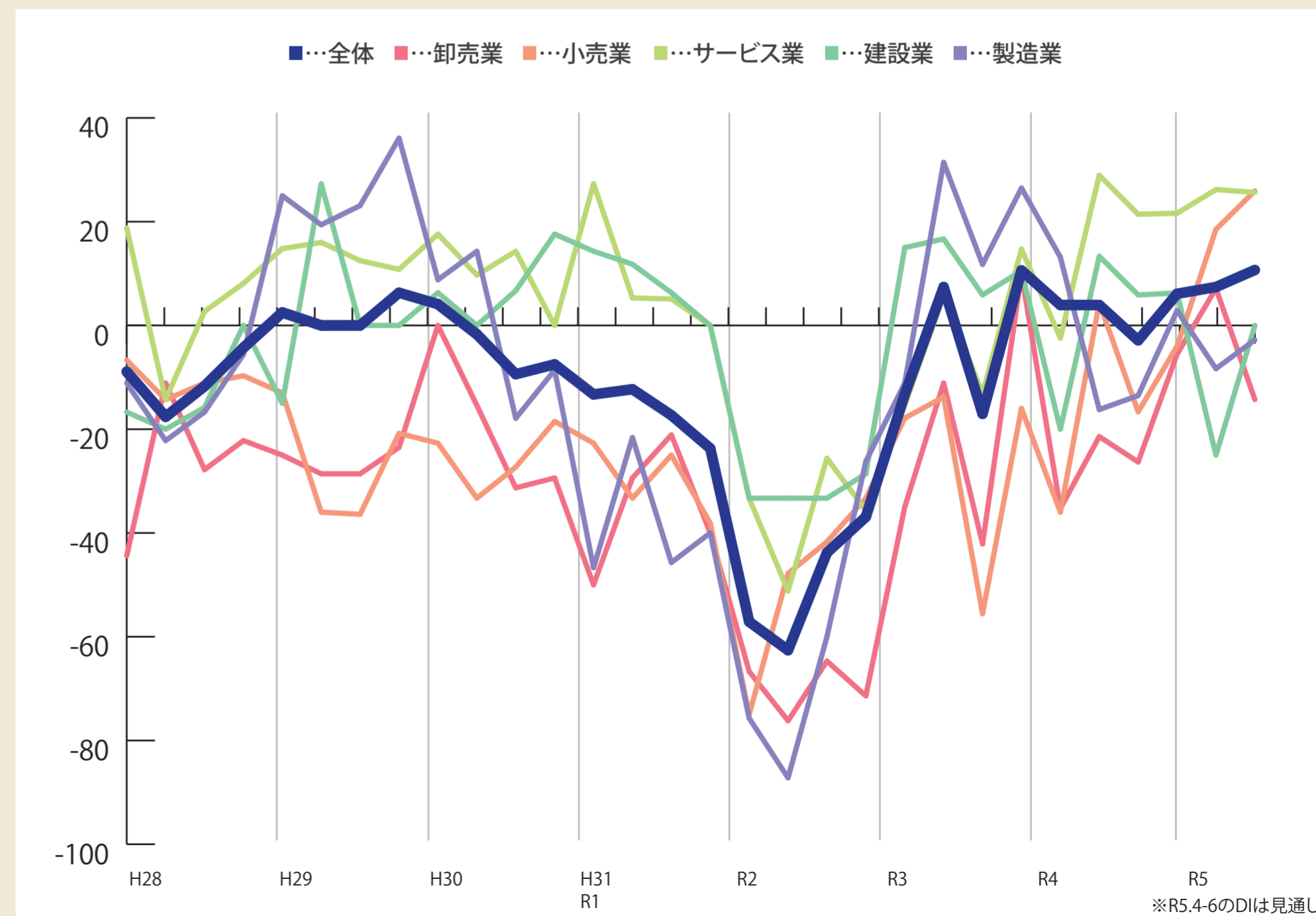
国内企業物価指数および輸入物価指数の対前年プラス幅の縮小や2023年2月から反映されている「電気・ガス価格激変緩和対策事業」で、原材料やエネルギーコストの負担が軽減することを期待したいものです。

（中小企業診断士 川副 郷一郎）

調査項目別 DI 値

	R4.1-3	R4.4-6	R4.7-9	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6 見通し
業況	▲ 10.3	3.9	▲ 2.9	6.1	7.4	10.7
売上高	▲ 8.8	7.9	2.9	10.0	10.4	16.8
採算(経常利益)資金	▲ 22.8	▲ 7.9	▲ 15.8	▲ 13.1	▲ 3.7	▲ 5.3
繰り	▲ 8.8	▲ 4.7	▲ 9.4	▲ 8.6	▲ 3.7	3.0
従業員	22.2	23.2	21.6	29.7	26.9	29.0
取引の問い合わせ	▲ 8.3	▲ 8.1	▲ 10.1	0.8	4.5	0.8
採算の水準	2.3	11.4	1.4	9.2	17.0	18.3
販売価格	28.1	45.7	47.4	48.5	43.0	50.8
仕入れ価格	74.2	82.3	77.9	77.0	80.3	78.3
業界動向	▲ 24.4	▲ 13.3	▲ 12.6	▲ 12.0	▲ 7.0	▲ 1.6
借入難易度(長期)	1.5	10.7	3.0	3.2	4.7	5.5
借入難易度(短期)	3.1	9.9	1.5	4.0	9.3	7.1
受注動向(建設業)	▲ 26.7	▲ 7.1	11.8	▲ 6.7	▲ 33.3	▲ 14.3
在庫量(製造業)	9.1	13.8	12.9	23.3	13.3	6.7

業種別業況 DI の推移（長期トレンド）



業種ごとの動向（卸売業・小売業・サービス業・建設業）

業況の動き アイコンの説明

- 前期の業況DI値から +1以上
- 前期の業況DI値から +1未満 ▲1超
- 前期の業況DI値から ▲1以下

※全国の業況DI... 「中小企業業況調査」 (中小企業庁)結果より

卸売業

業況の動き (3ヶ月前比較)

全国	長浜
業況 DI ▲21.3→▲9.8	業況 DI ▲5.6→7.1

事業者の声

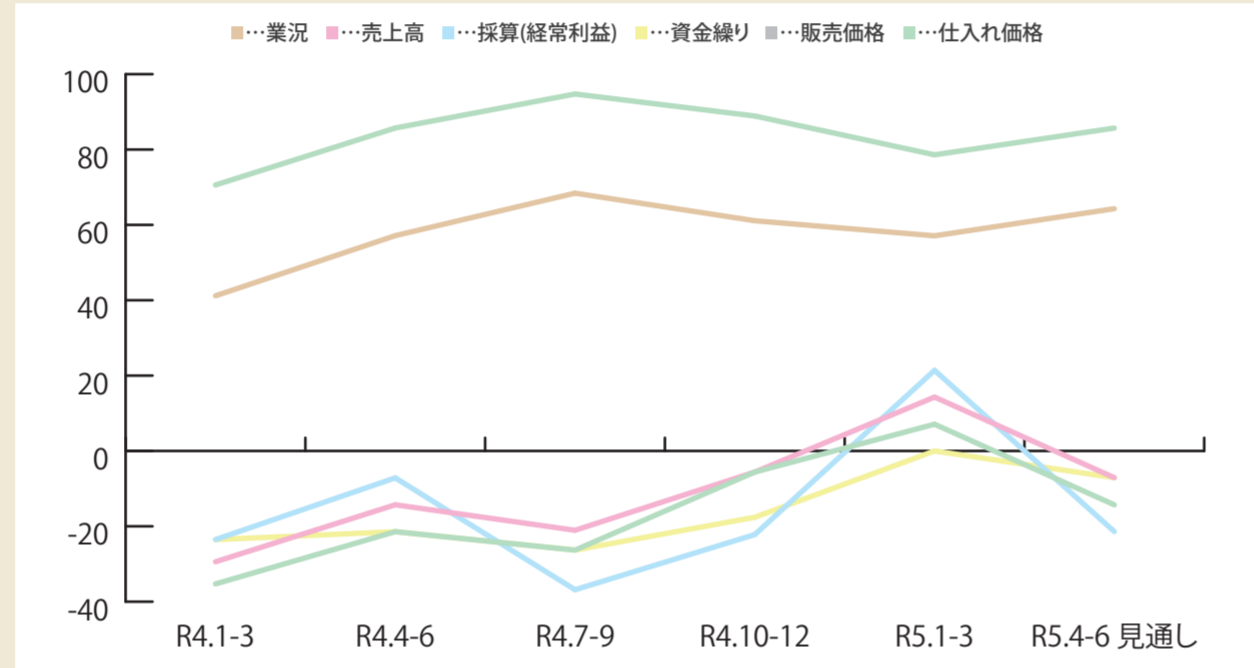
好転

- 新しい設備投資計画が浮上実施される。

悪化

- 仕入価格の上昇や、光熱費、燃料費の上昇が収益の圧迫要因となっている。

	R4.1-3	R4.4-6	R4.7-9	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6 見通し
業況	▲35.3	▲21.4	▲26.3	▲5.6	7.1	▲14.3
売上高	▲29.4	▲14.3	▲21.1	▲5.6	14.3	▲7.1
採算(経常利益)	▲23.5	▲7.1	▲36.8	▲22.2	21.4	▲21.4
資金繰り	▲23.5	▲21.4	▲26.3	▲17.6	0.0	▲7.1
販売価格	41.2	57.1	68.4	61.1	57.1	64.3
仕入れ価格	70.6	85.7	94.7	88.9	78.6	85.7



サービス業

業況の動き (3ヶ月前比較)

全国	長浜
業況 DI ▲23.0→▲8.7	業況 DI 21.6→26.2

事業者の声

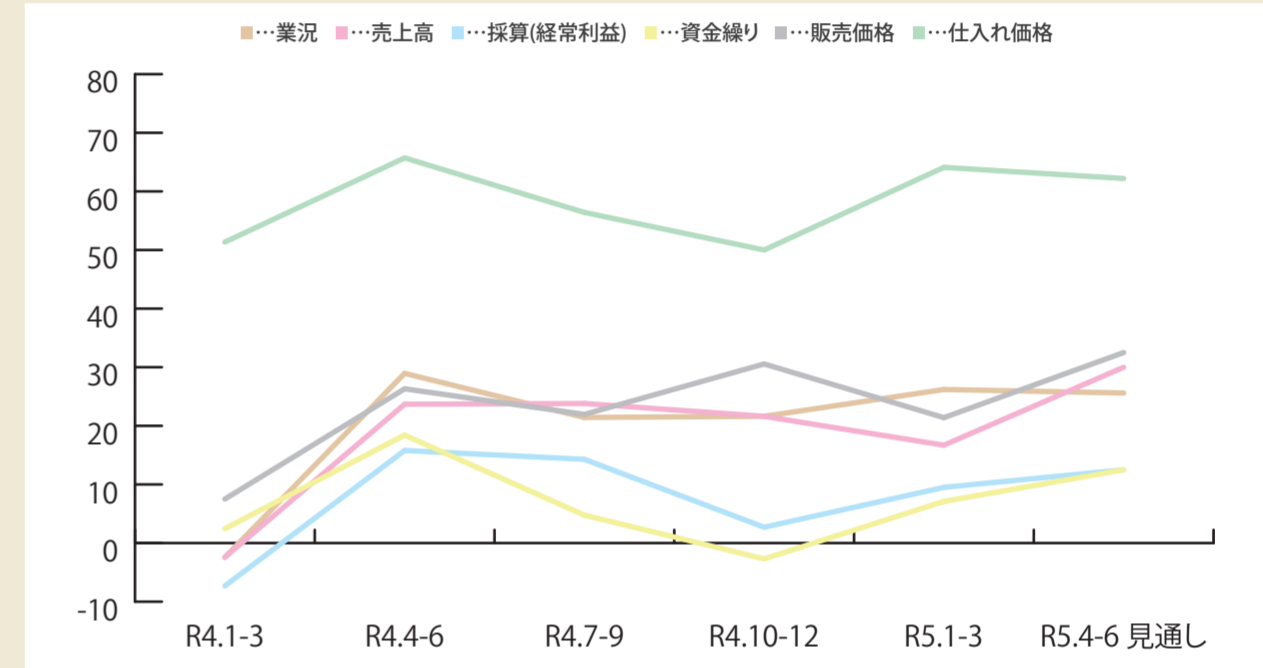
好転

- 新型コロナウイルスの影響がほぼ収束した。人の動きが活発になった。
- コロナによる感染が収束し、サービス業を中心に仕事が動きつつある。

悪化

- 運賃の値上げがあり、5%程度の負担増加となった。
- 雇用状況が徐々にタイトになる。
- 原材料の値上りがコロナ時代並に足をひっぱる。
- 仕入先の商品の加工が鈍化。売れ筋商品や問い合わせ商品の納期が未定なので売り逃しがある。

	R4.1-3	R4.4-6	R4.7-9	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6 見通し
業況	▲2.4	28.9	21.4	21.6	26.2	25.6
売上高	▲2.4	23.7	23.8	21.6	16.7	30.0
採算(経常利益)	▲7.3	15.8	14.3	2.7	9.5	12.5
資金繰り	2.4	18.4	4.8	▲2.7	7.1	12.5
販売価格	7.5	26.3	22.0	30.6	21.4	32.5
仕入れ価格	51.4	65.7	56.4	50.0	64.1	62.2



小売業

業況の動き (3ヶ月前比較)

全国	長浜
業況 DI ▲31.0→▲22.9	業況 DI ▲4.0→18.5

事業者の声

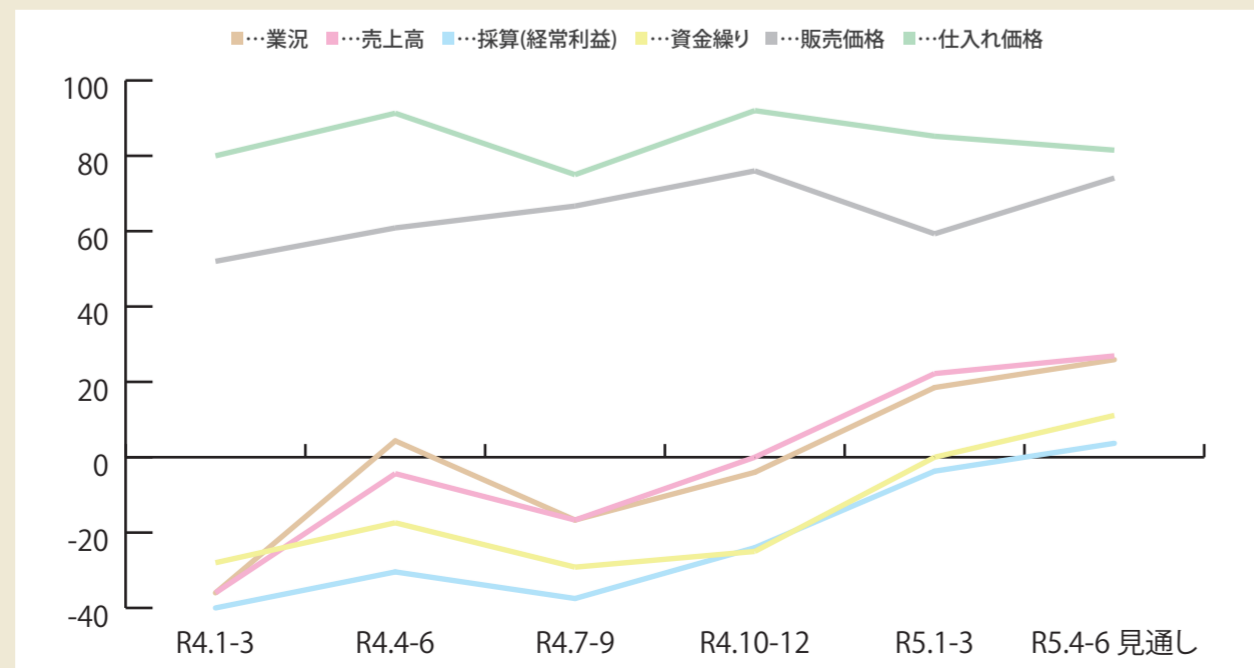
好転

- コロナの悪影響はほぼなくなった。
- コロナの収束で観光客が戻ってきた。
- イベントなどの再開による需要増加、ネット販売の増進。

悪化

- 売上は増えたものの、仕入れ価格上昇もあり、採算ベースでは黒字確保は厳しい。
- コロナの概ね収束に伴い、旅行等サービスへの出費に向いているせいか、物販の動きが悪い。

	R4.1-3	R4.4-6	R4.7-9	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6 見通し
業況	▲36.0	4.3	▲16.7	▲4.0	18.5	25.9
売上高	▲36.0	▲4.3	▲16.7	0.0	22.2	26.9
採算(経常利益)	▲40.0	▲30.4	▲37.5	▲24.0	▲3.7	3.7
資金繰り	▲28.0	▲17.4	▲29.2	▲25.0	0.0	11.1
販売価格	52.0	60.9	66.7	76.0	59.3	74.1
仕入れ価格	80.0	91.3	75.0	92.0	85.2	81.5



建設業

業況の動き (3ヶ月前比較)

全国	長浜
業況 DI ▲15.8→▲13.9	業況 DI 6.3→▲25.0

事業者の声

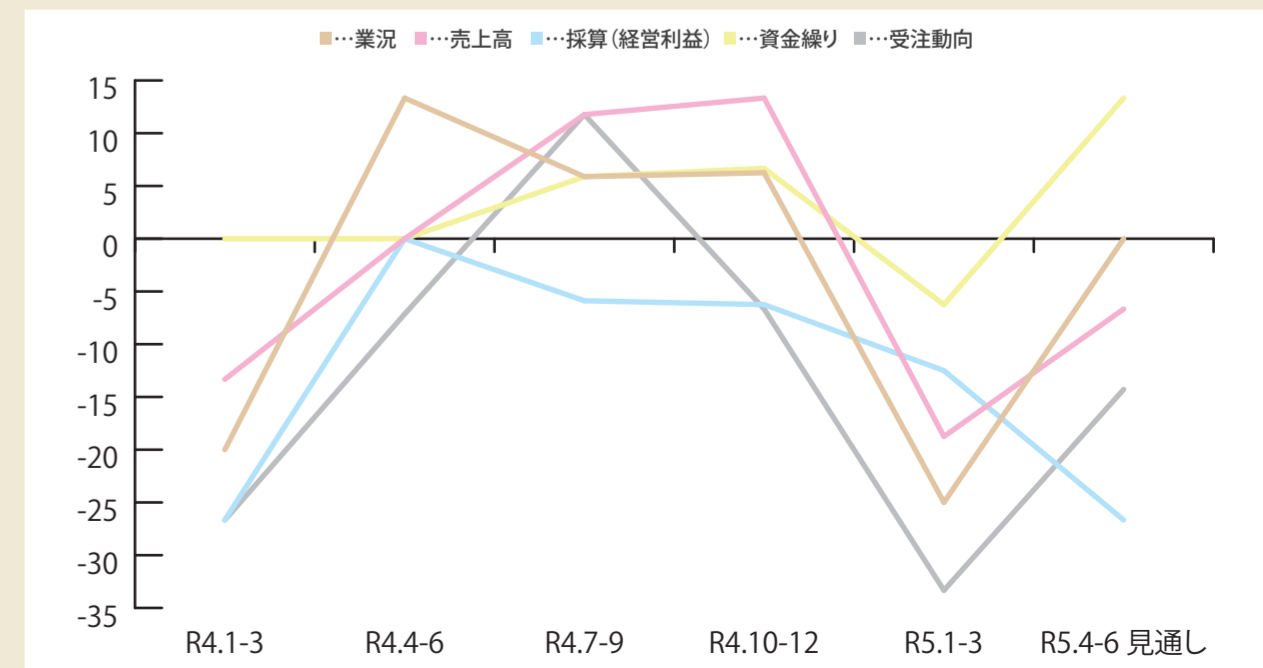
好転

- 物価上昇分を販売価格に乗せていけば好転する。
- コロナ禍が終息しつつあるのでイベントやフェアが開催しやすくなって来た事で営業機会が増えた。

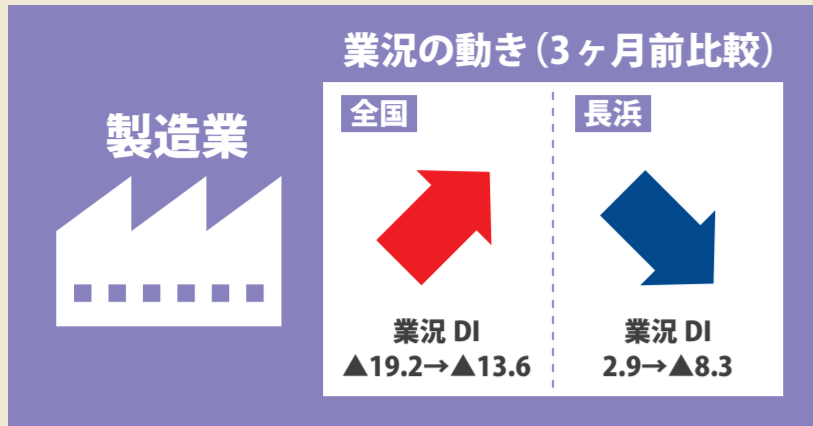
悪化

- 新規見込客が少ない。
- 材料価格の高騰で採算が合わなくなって来ている事と、見積りの精度が落ちて原価が掴みにくい。

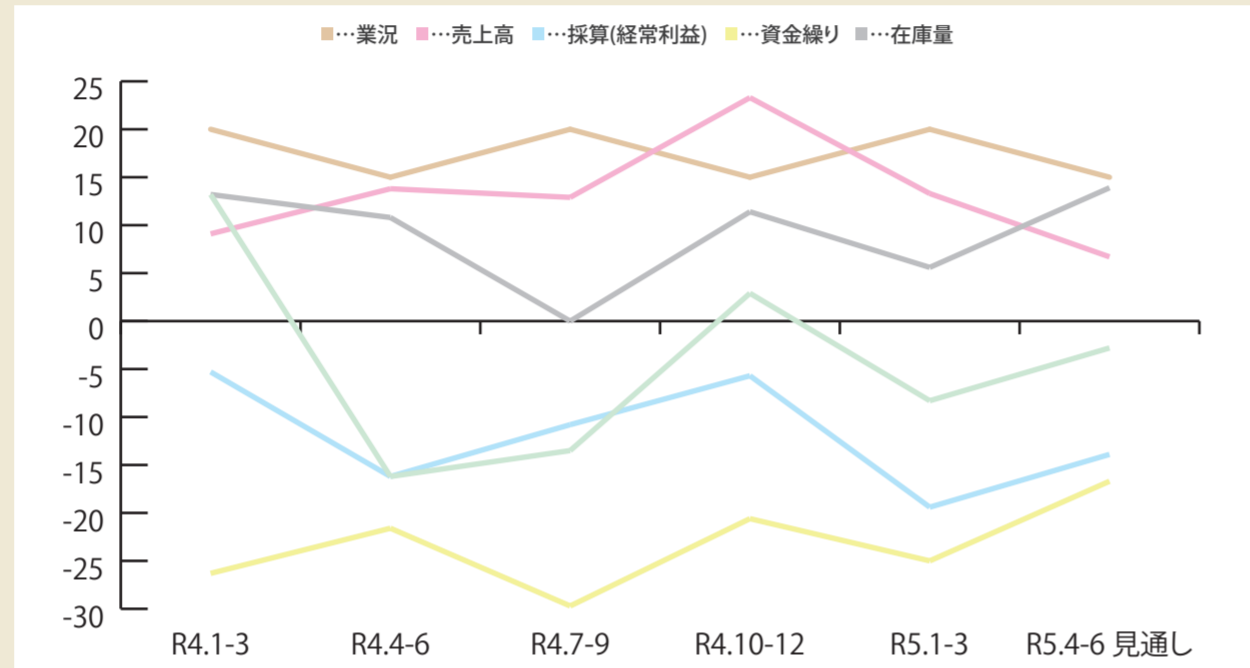
	R4.1-3	R4.4-6	R4.7-9	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6 見通し
業況	▲20.0	13.3	5.9	6.3	▲25.0	0.0
売上高	▲13.3	0.0	11.8	13.3	▲18.8	▲6.7
採算(経常利益)	▲26.7	0.0	▲5.9	▲6.3	▲12.5	▲26.7
資金繰り	0.0	0.0	5.9	6.7	▲6.3	13.3
受注動向	▲26.7	▲7.1	11.8	▲6.7	▲33.3	▲14.3



業種ごとの動向（製造業）



	R4.1-3	R4.4-6	R4.7-9	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6 見通し
業況	13.2	▲16.2	▲13.5	2.9	▲8.3	▲2.8
売上高	13.2	10.8	0.0	11.4	5.6	13.9
採算(経常利益)	▲26.3	▲21.6	▲29.7	▲20.6	▲25.0	▲16.7
資金繰り	▲5.3	▲16.2	▲10.8	▲5.7	▲19.4	▲13.9
在庫量	9.1	13.8	12.9	23.3	13.3	6.7



事業者の声

好転

- ・需給バランスがあってきた。新規取引、商品の問合わせが活発になってきた。
- ・2月に東京ギフトショーに参加。何かかとの取引があった。また、多くの意見が聞けて次への製造につながられた。

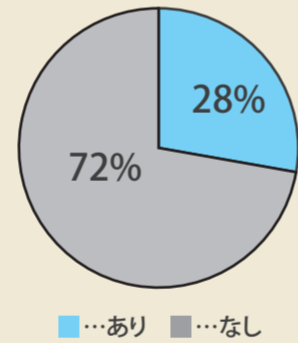
悪化

- ・仕入の値段が全て上がっている。従業員の給料を上げたいが、逆に原資が仕入れに回って苦しくなっていて上げられない状況である。
- ・住宅価格や土地の価格、金利上昇により購買意欲の低下が見られる。

設備投資の有無

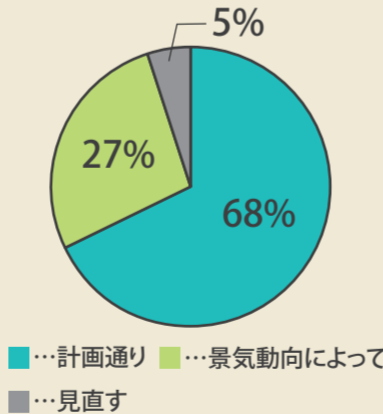
①設備投資の有無

	卸売業	小売業	サービス業	建設業	製造業	合計
あり	5	6	5	6	15	37
なし	9	21	35	10	21	96



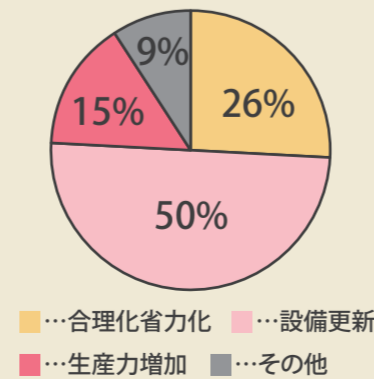
②①で「あり」と答えた場合、計画の実行について

	卸売業	小売業	サービス業	建設業	製造業	合計
計画通り	3	4	3	4	11	25
景気動向によって見直す	2	2	2	1	3	10
見直す	0	0	0	1	1	2



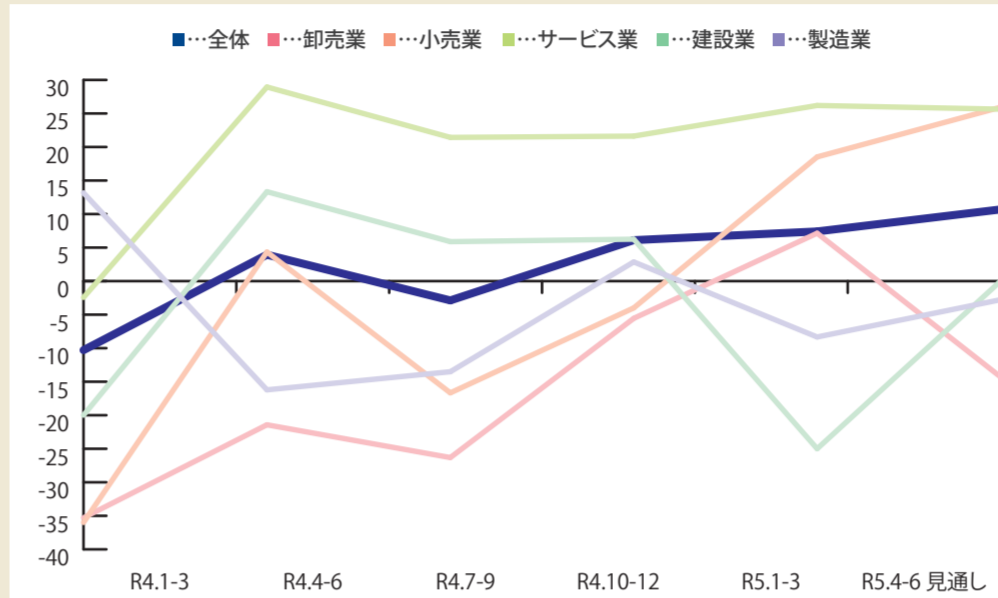
③①で「あり」と答えた場合、計画の内容について

	卸売業	小売業	サービス業	建設業	製造業	合計
合理化省力化	1	1	0	1	6	9
設備更新	3	1	4	1	8	17
生産力増加	1	2	0	1	1	5
その他	0	0	0	3	0	3

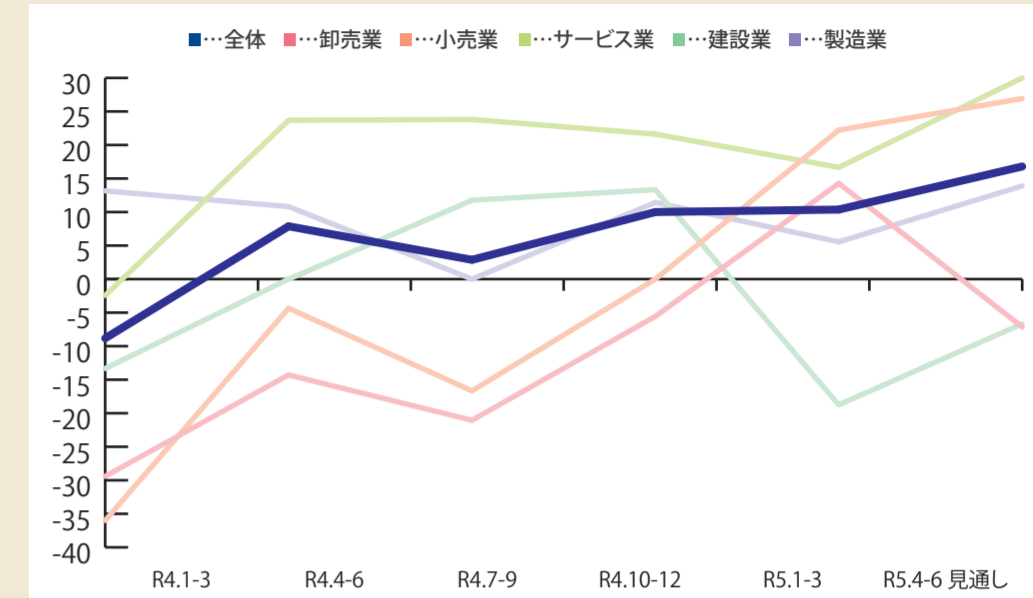


調査項目別 DI の推移①

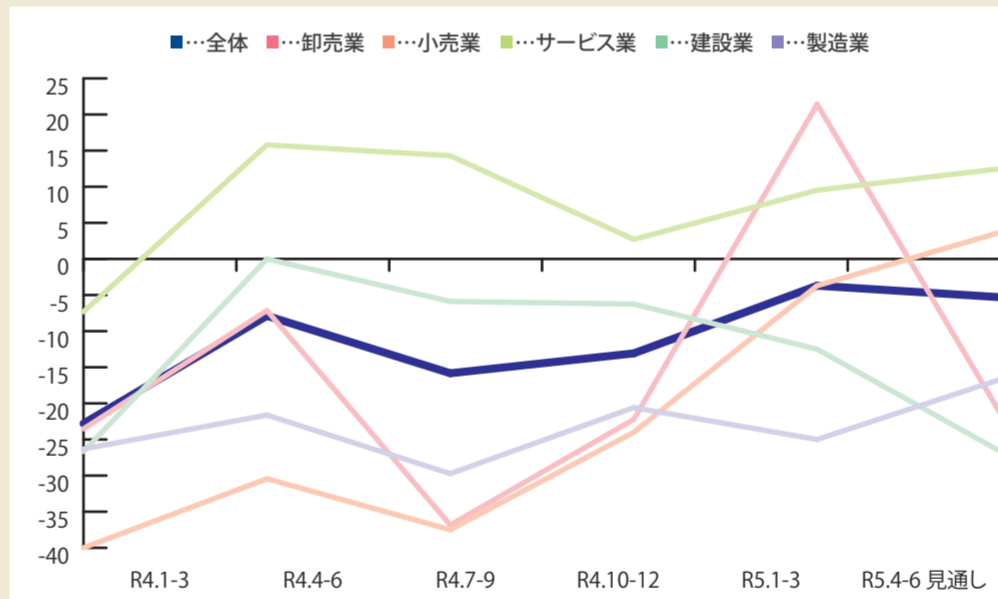
業況	R4.1-3	R4.4-6	R4.7-9	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6 見通し
全体	▲10.3	3.9	▲2.9	6.1	7.4	10.7
卸売業	▲35.3	▲21.4	▲26.3	▲5.6	7.1	▲14.3
小売業	▲36.0	4.3	▲16.7	▲4.0	18.5	25.9
サービス業	▲2.4	28.9	21.4	21.6	26.2	25.6
建設業	▲20.0	13.3	5.9	6.3	▲25.0	0.0
製造業	13.2	▲16.2	▲13.5	2.9	▲8.3	▲2.8



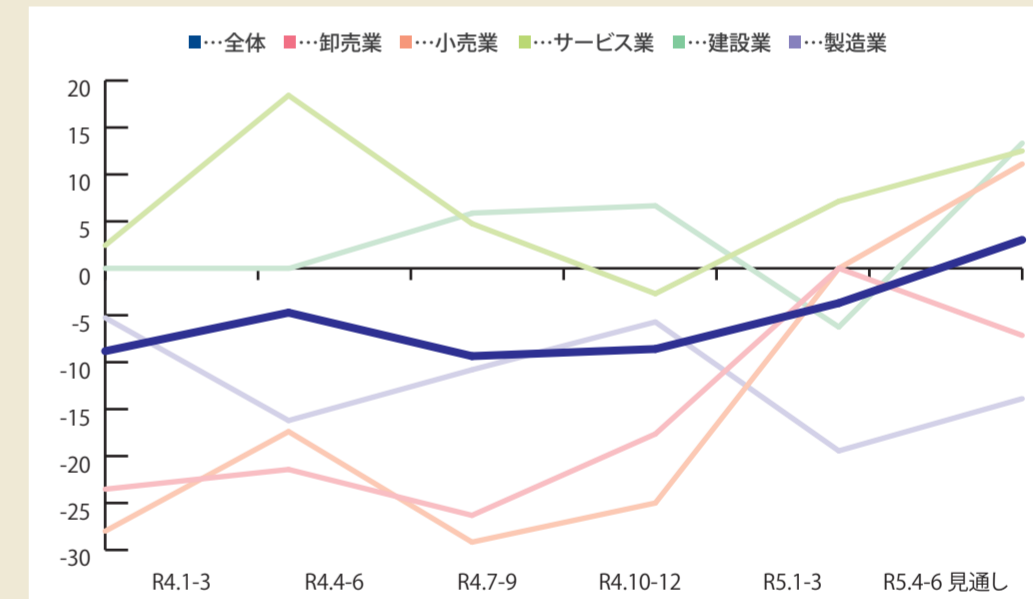
売上高	R4.1-3	R4.4-6	R4.7-9	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6 見通し
全体	▲8.8	7.9	2.9	10.0	10.4	16.8
卸売業	▲29.4	▲14.3	▲21.1	▲5.6	14.3	▲7.1
小売業	▲36.0	▲4.3	▲16.7	0.0	22.2	26.9
サービス業	▲2.4	23.7	23.8	21.6	16.7	30.0
建設業	▲13.3	0.0	11.8	13.3	▲18.8	▲6.7
製造業	13.2	10.8	0.0	11.4	5.6	13.9



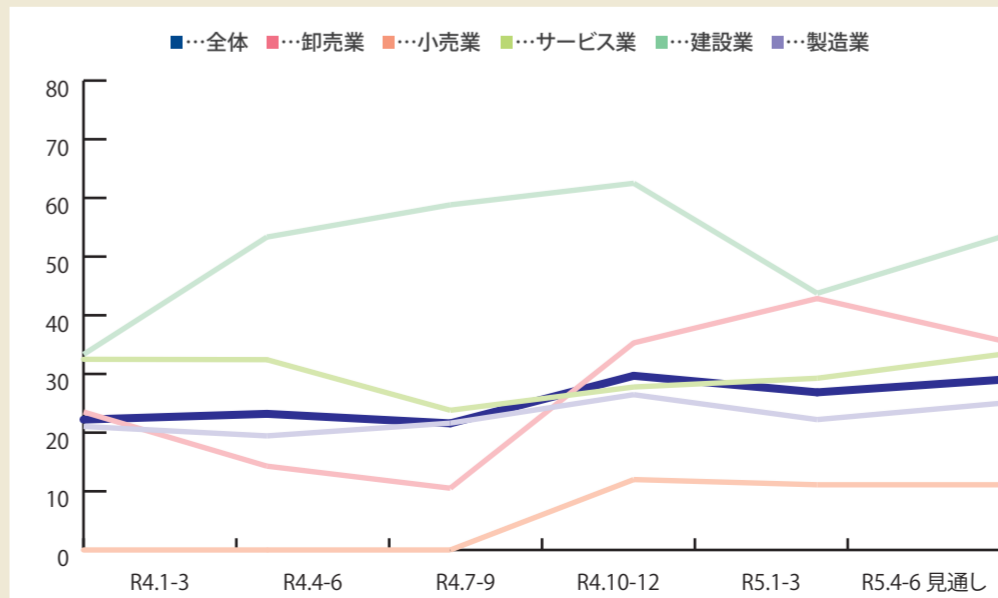
採算	R4.1-3	R4.4-6	R4.7-9	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6 見通し
全体	▲22.8	▲7.9	▲15.8	▲13.1	▲3.7	▲5.3
卸売業	▲23.5	▲7.1	▲36.8	▲22.2	21.4	▲21.4
小売業	▲40.0	▲30.4	▲37.5	▲24.0	▲3.7	3.7
サービス業	▲7.3	15.8	14.3	2.7	9.5	12.5
建設業	▲26.7	0.0	▲5.9	▲6.3	▲12.5	▲26.7
製造業	▲26.3	▲21.6	▲29.7	▲20.6	▲25.0	▲16.7



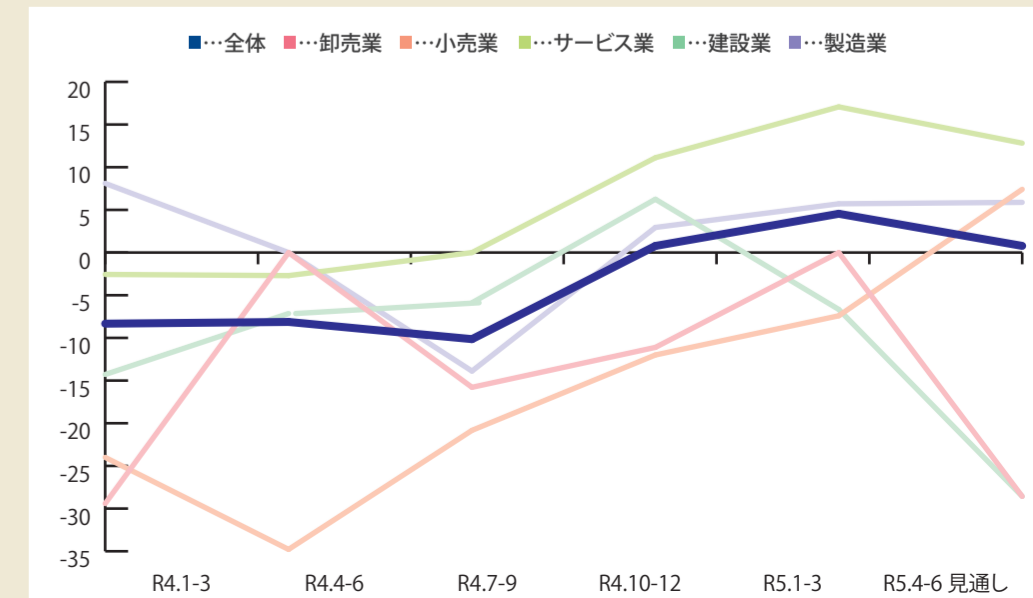
資金繰り	R4.1-3	R4.4-6	R4.7-9	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6 見通し
全体	▲8.8	▲4.7	▲9.4	▲8.6	▲3.7	3.0
卸売業	▲23.5	▲21.4	▲26.3	▲17.6	0.0	▲7.1
小売業	▲28.0	▲17.4	▲29.2	▲25.0	0.0	11.1
サービス業	2.4	18.4	4.8	▲2.7	7.1	12.5
建設業	0.0	0.0	5.9	6.7	▲6.3	13.3
製造業	▲5.3	▲16.2	▲10.8	▲5.7	▲19.4	▲13.9



従業員	R4.1-3	R4.4-6	R4.7-9	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6 見通し
全体	22.2	23.2	21.6	29.7	26.9	29.0
卸売業	23.5	14.3	10.5	35.3	42.9	35.7
小売業	0.0	0.0	0.0	12.0	11.1	11.1
サービス業	32.5	32.4	23.8	27.8	29.3	33.3
建設業	33.3	53.3	58.8	62.5	43.8	53.3
製造業	21.1	19.4	21.6	26.5	22.2	25.0



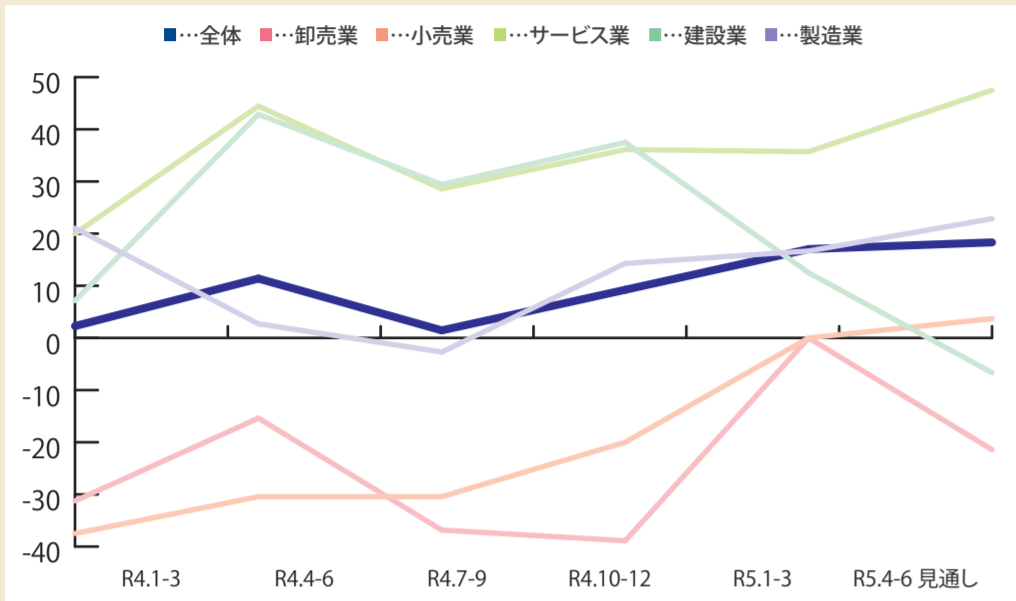
取引問合せ	R4.1-3	R4.4-6	R4.7-9	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6 見通し
全体	▲8.3	▲8.1	▲10.1	0.8	4.5	0.8
卸売業	▲29.4	0.0	▲15.8	▲11.1	0.0	▲28.6
小売業	▲24.0	▲34.8	▲20.8	▲12.0	▲7.4	7.4
サービス業	▲2.6	▲2.7	0.0	11.1	17.1	12.8
建設業	▲14.3	▲7.1	▲5.9	6.3	▲6.7	▲28.6
製造業	8.1	0.0	▲13.9	2.9	5.7	5.9



調査項目別 DI の推移②

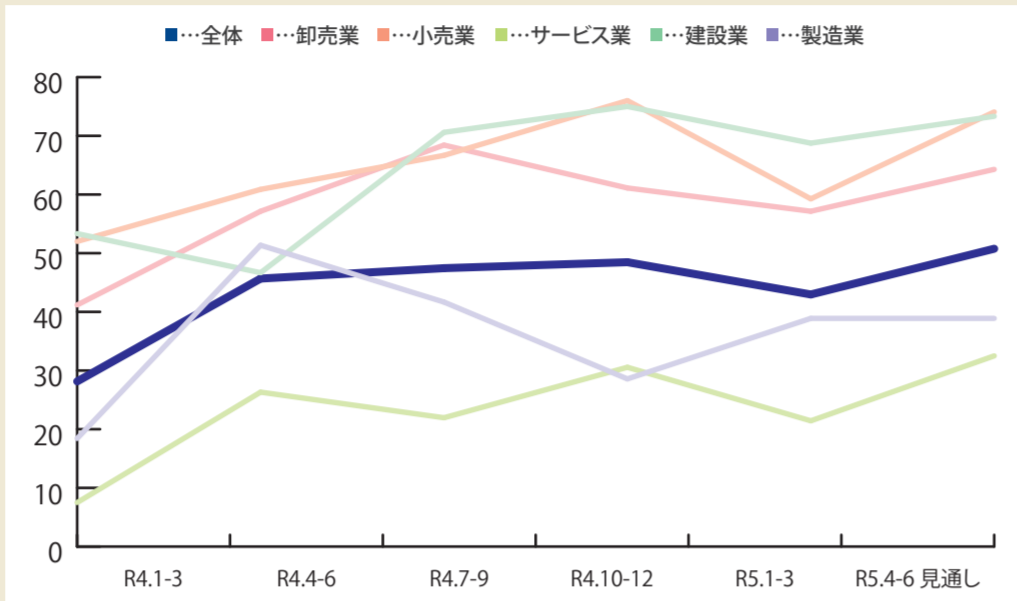
採算の水準

	R4.1-3	R4.4-6	R4.7-9	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6 見通し
全体	2.3	11.4	1.4	9.2	17.0	18.3
卸売業	▲31.3	▲15.4	▲36.8	▲38.9	0.0	▲21.4
小売業	▲37.5	▲30.4	▲30.4	▲20.0	0.0	3.7
サービス業	20.0	44.4	28.6	36.1	35.7	47.5
建設業	7.1	42.9	29.4	37.5	12.5	▲6.7
製造業	21.1	2.7	▲2.7	14.3	16.7	22.9



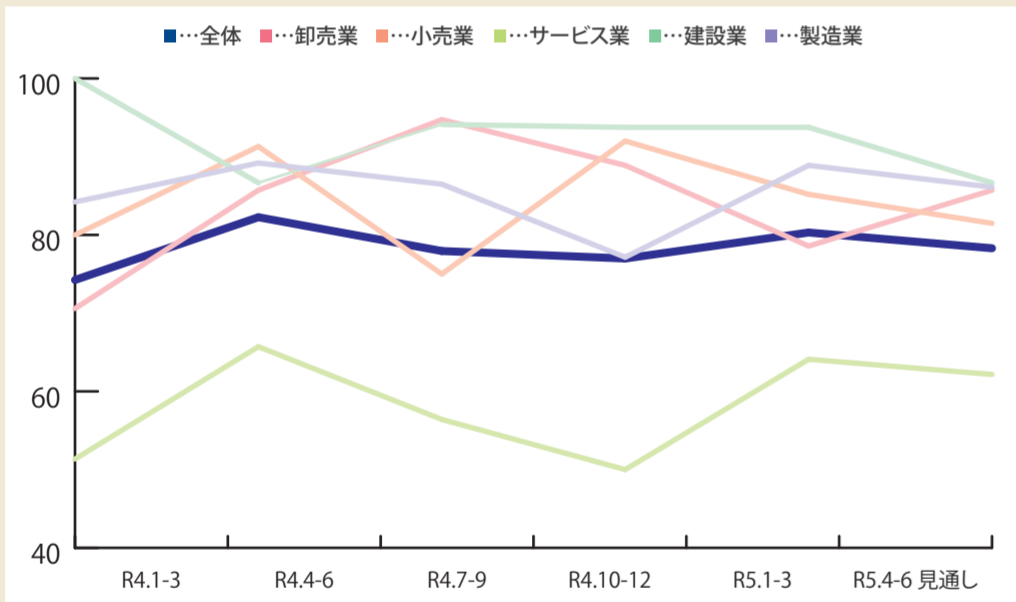
販売価格

	R4.1-3	R4.4-6	R4.7-9	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6 見通し
全体	28.1	45.7	47.4	48.5	43.0	50.8
卸売業	41.2	57.1	68.4	61.1	57.1	64.3
小売業	52.0	60.9	66.7	76.0	59.3	74.1
サービス業	7.5	26.3	22.0	30.6	21.4	32.5
建設業	53.3	46.7	70.6	75.0	68.8	73.3
製造業	18.4	51.4	41.7	28.6	38.9	38.9



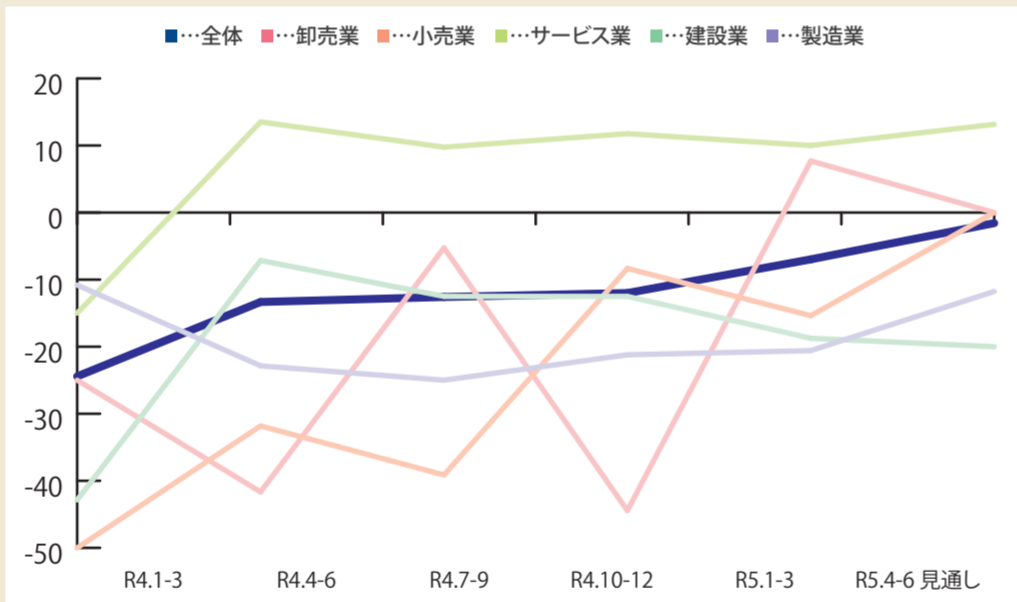
仕入価格

	R4.1-3	R4.4-6	R4.7-9	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6 見通し
全体	74.2	82.3	77.9	77.0	80.3	78.3
卸売業	70.6	85.7	94.7	88.9	78.6	85.7
小売業	80.0	91.3	75.0	92.0	85.2	81.5
サービス業	51.4	65.7	56.4	50.0	64.1	62.2
建設業	100.0	86.7	94.1	93.8	93.8	86.7
製造業	84.2	89.2	86.5	77.1	88.9	86.1



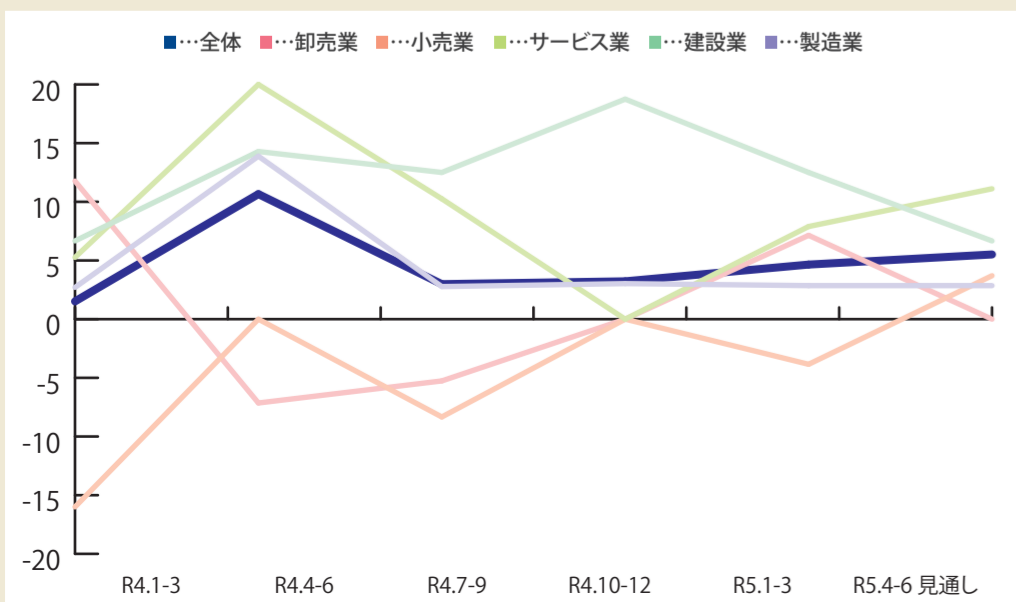
業界動向

	R4.1-3	R4.4-6	R4.7-9	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6 見通し
全体	▲24.4	▲13.3	▲12.6	▲12.0	▲7.0	▲1.6
卸売業	▲25.0	▲41.7	▲5.3	▲44.4	7.7	0.0
小売業	▲50.0	▲31.8	▲39.1	▲8.3	▲15.4	0.0
サービス業	▲15.0	13.5	9.8	11.8	10.0	13.2
建設業	▲42.9	▲7.1	▲12.5	▲12.5	▲18.8	▲20.0
製造業	▲10.8	▲22.9	▲25.0	▲21.2	▲20.6	▲11.8



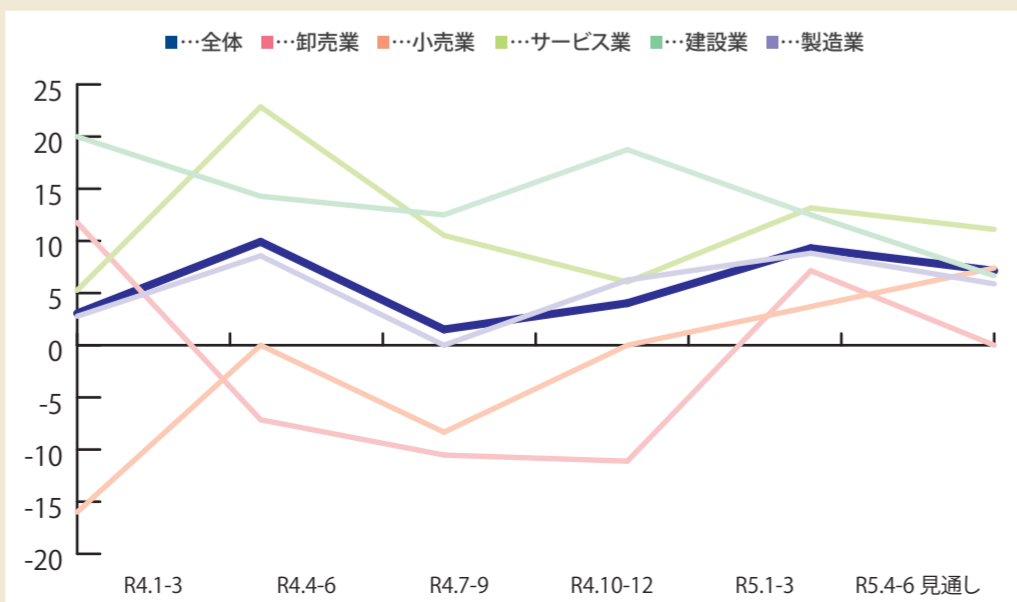
長期資金借入難度

	R4.1-3	R4.4-6	R4.7-9	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6 見通し
全体	1.5	10.7	3.0	3.2	4.7	5.5
卸売業	11.8	▲7.1	▲5.3	0.0	7.1	0.0
小売業	▲16.0	0.0	▲8.3	0.0	▲3.8	3.7
サービス業	5.3	20.0	10.3	0.0	7.9	11.1
建設業	6.7	14.3	12.5	18.8	12.5	6.7
製造業	2.7	13.9	2.8	3.0	2.9	2.9



短期資金借入難度

	R4.1-3	R4.4-6	R4.7-9	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6 見通し
全体	3.1	9.9	1.5	4.0	9.3	7.1
卸売業	11.8	▲7.1	▲10.5	▲11.1	7.1	0.0
小売業	▲16.0	0.0	▲8.3	0.0	3.7	7.4
サービス業	5.3	22.9	10.5	6.1	13.2	11.1
建設業	20.0	14.3	12.5	18.8	12.5	6.7
製造業	2.8	8.6	0.0	6.3	8.8	5.9



その他業種別自由意見

	改善👍	悪化👎
卸売業	<ul style="list-style-type: none"> ・少しずつではあるが、以前の状況を取り戻しつつあるような気がする。 ・リニューアル(店舗)して来店数が増加した。観光客がコロナ収束して増加していると思う。 ・政府助成金のおかげで、油価が安定し採算販売がしやすくなった。 ・コロナの感染者数が減少してきている。 ・問合わせ、売上等上昇傾向。 ・3月中頃からイトインの利用が増加。 ・商品の値上げを行ったが、ホームページやネットショップページの全面的リニューアルも行ったおかげで、売上が落ちず前期よりも良かった。 ・3月後半にかけて急速に取引の引き合いが増え、繁忙であった。 ・週末の観光客の増加に伴い、売り上げが回復傾向にある。但し、平日はまだまだ厳しい状況が続きます。 ・人の動きが活発になってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2050年のカーボンニュートラルについて、見通しのたたない製造業が多いように感じる。 ・仕入れ価格の上昇(年間数回行われた)
	<ul style="list-style-type: none"> ・取引メーカーの値上げが続いている。 ・2月~4月にかけて各メーカー値上げラッシュになっています。当分は売上に影響する可能性がある。 ・原材料の高騰が続いている。 ・原材料がまだ上昇する。 ・価格上昇による買いかえが予想できる。 ・冠婚葬祭の簡略化によるニーズの減少。 ・円安と原材料の高騰により、価格が上昇した。 ・仕入先の商品の加工が鈍化。 ・売れ筋商品や問い合わせ商品の納期が未定なので売り逃しがある。 ・商品、原料、資材と全般的に仕入経費が増加の上、社会保障費、人件費、水道光熱費も増加し、利益を圧迫。 	<ul style="list-style-type: none"> ・取引メーカーの値上げが続いている。 ・2月~4月にかけて各メーカー値上げラッシュになっています。当分は売上に影響する可能性がある。 ・原材料の高騰が続いている。 ・原材料がまだ上昇する。 ・価格上昇による買いかえが予想できる。 ・冠婚葬祭の簡略化によるニーズの減少。 ・円安と原材料の高騰により、価格が上昇した。 ・商品、原料、資材と全般的に仕入経費が増加の上、社会保障費、人件費、水道光熱費も増加し、利益を圧迫。
小売業	<ul style="list-style-type: none"> ・IT化は進んでいる為。 ・上半期の落ち込みを下半期で少しずつ取り戻している。 ・事業内容がコロナ前、本来の状態に戻ってきている。 ・観光客は戻りつつある。地元企業様の利用はこれからという感じ。 ・しが割があり一時的に売り上げが伸び、新規顧客数は増加。 ・少し事業計画依頼等の相談がまた増えてきた。依然資材、材料単価の値上がり情報が続いている。待っていても価格が下がらないと認識してきたのか、コロナが納まりつつあるからなのか、不明だが。 ・観光が増えてきたことにより、少しずつお客様も動き出してきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・IT化は進んでいる為。 ・上半期の落ち込みを下半期で少しずつ取り戻している。 ・事業内容がコロナ前、本来の状態に戻ってきている。 ・観光客は戻りつつある。地元企業様の利用はこれからという感じ。 ・しが割があり一時的に売り上げが伸び、新規顧客数は増加。 ・少し事業計画依頼等の相談がまた増えてきた。依然資材、材料単価の値上がり情報が続いている。待っていても価格が下がらないと認識してきたのか、コロナが納まりつつあるからなのか、不明だが。 ・観光が増えてきたことにより、少しずつお客様も動き出してきた。
	<ul style="list-style-type: none"> ・人材の確保。 ・業務の適正化。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資材値上り、納入困難(一部材料) ・受注減少。 ・人手不足が慢性化。人件費増。
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> ・売上増は単価上昇によるもので、ボリュームが増えたものではない。 ・受注が回復した。 ・エネルギー及び原材料高は一旦落ち着きつつある。(が、今後の動向は不透明で採算確保に尽力していく必要があると認識している。) ・基本的にはまだまだコロナ禍の影響下で引き合いは低調ではあるがその中でも少し需要が上向いてきている気配を感じているところで、年明けから前年同期よりは発注が増えてきた。原材料高や人件費、電気代の高騰により、製品の価格を上げざるを得ないことから、コロナ回復後の立ち上がり需要に悪影響を与えているように感じる。 ・3月に入り、売上が回復してきた。 ・コロナが日常化し、和装業界もフォーマルが少し動き出した様子。染め屋さんは忙しそうなので少しずつ小売は好転しているようです。仕入原価上昇のため、生地単価の値上が通ったことで売上が少し上がった。 ・お客様の設備投資は前向きのような話を聞く。ただ、先行きは不透明。 ・医療関係で新たな引き合いが来ており、試作を開始している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・電力費の上昇が収益を圧迫している。 ・部品不足の解消が進むにつれ、取引先の在庫圧縮による受注減となっている。 ・コロナ禍が終息して、本来の季節性産業に戻ってきたように思う。7月以後に結果が出そう。 ・電気代のコスト、消耗品値上げで大変。 ・半導体の景気が悪いです。 ・光熱費、原料コストの大幅な上昇。 ・人材確保がより厳しくなっている。パートさんや派遣社員も時給上昇しており、価格転嫁尽力するも、採算面で苦戦。 ・電力、仕入価格の高騰。 ・原料、電気、ガス料金の高騰により厳しい状態が続いている。 ・国内自動車開発の停滞。 ・漆や木材、特に金製品が値上がりしているが、すぐに商品や製品の値上げができない。 ・日中間の良好な状況を早期に実現してもらいたい。 ・様々な仕入原価の値上がり影響している。高齢化や生活環境変化の影響で職人の数が減り、納期が掛かるようになったことも要因の1つ。 ・受注量の減少に加え、電力料の値上げが大きく影響している。 ・米中間の悪化と日中間もぎくしゃくして中国への渡航手続も煩雑で苦慮している。 ・相変わらず自動車部品の生産が回復しない。
	<ul style="list-style-type: none"> ・人材の確保。 ・業務の適正化。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資材値上り、納入困難(一部材料) ・受注減少。 ・人手不足が慢性化。人件費増。
建設業	<ul style="list-style-type: none"> ・売上増は単価上昇によるもので、ボリュームが増えたものではない。 ・受注が回復した。 ・エネルギー及び原材料高は一旦落ち着きつつある。(が、今後の動向は不透明で採算確保に尽力していく必要があると認識している。) ・基本的にはまだまだコロナ禍の影響下で引き合いは低調ではあるがその中でも少し需要が上向いてきている気配を感じているところで、年明けから前年同期よりは発注が増えてきた。原材料高や人件費、電気代の高騰により、製品の価格を上げざるを得ないことから、コロナ回復後の立ち上がり需要に悪影響を与えているように感じる。 ・3月に入り、売上が回復してきた。 ・コロナが日常化し、和装業界もフォーマルが少し動き出した様子。染め屋さんは忙しそうなので少しずつ小売は好転しているようです。仕入原価上昇のため、生地単価の値上が通ったことで売上が少し上がった。 ・お客様の設備投資は前向きのような話を聞く。ただ、先行きは不透明。 ・医療関係で新たな引き合いが来ており、試作を開始している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・電力費の上昇が収益を圧迫している。 ・部品不足の解消が進むにつれ、取引先の在庫圧縮による受注減となっている。 ・コロナ禍が終息して、本来の季節性産業に戻ってきたように思う。7月以後に結果が出そう。 ・電気代のコスト、消耗品値上げで大変。 ・半導体の景気が悪いです。 ・光熱費、原料コストの大幅な上昇。 ・人材確保がより厳しくなっている。パートさんや派遣社員も時給上昇しており、価格転嫁尽力するも、採算面で苦戦。 ・電力、仕入価格の高騰。 ・原料、電気、ガス料金の高騰により厳しい状態が続いている。 ・国内自動車開発の停滞。 ・漆や木材、特に金製品が値上がりしているが、すぐに商品や製品の値上げができない。 ・日中間の良好な状況を早期に実現してもらいたい。 ・様々な仕入原価の値上がり影響している。高齢化や生活環境変化の影響で職人の数が減り、納期が掛かるようになったことも要因の1つ。 ・受注量の減少に加え、電力料の値上げが大きく影響している。 ・米中間の悪化と日中間もぎくしゃくして中国への渡航手続も煩雑で苦慮している。 ・相変わらず自動車部品の生産が回復しない。
	<ul style="list-style-type: none"> ・人材の確保。 ・業務の適正化。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資材値上り、納入困難(一部材料) ・受注減少。 ・人手不足が慢性化。人件費増。
製造業	<ul style="list-style-type: none"> ・売上増は単価上昇によるもので、ボリュームが増えたものではない。 ・受注が回復した。 ・エネルギー及び原材料高は一旦落ち着きつつある。(が、今後の動向は不透明で採算確保に尽力していく必要があると認識している。) ・基本的にはまだまだコロナ禍の影響下で引き合いは低調ではあるがその中でも少し需要が上向いてきている気配を感じているところで、年明けから前年同期よりは発注が増えてきた。原材料高や人件費、電気代の高騰により、製品の価格を上げざるを得ないことから、コロナ回復後の立ち上がり需要に悪影響を与えているように感じる。 ・3月に入り、売上が回復してきた。 ・コロナが日常化し、和装業界もフォーマルが少し動き出した様子。染め屋さんは忙しそうなので少しずつ小売は好転しているようです。仕入原価上昇のため、生地単価の値上が通ったことで売上が少し上がった。 ・お客様の設備投資は前向きのような話を聞く。ただ、先行きは不透明。 ・医療関係で新たな引き合いが来ており、試作を開始している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・電力費の上昇が収益を圧迫している。 ・部品不足の解消が進むにつれ、取引先の在庫圧縮による受注減となっている。 ・コロナ禍が終息して、本来の季節性産業に戻ってきたように思う。7月以後に結果が出そう。 ・電気代のコスト、消耗品値上げで大変。 ・半導体の景気が悪いです。 ・光熱費、原料コストの大幅な上昇。 ・人材確保がより厳しくなっている。パートさんや派遣社員も時給上昇しており、価格転嫁尽力するも、採算面で苦戦。 ・電力、仕入価格の高騰。 ・原料、電気、ガス料金の高騰により厳しい状態が続いている。 ・国内自動車開発の停滞。 ・漆や木材、特に金製品が値上がりしているが、すぐに商品や製品の値上げができない。 ・日中間の良好な状況を早期に実現してもらいたい。 ・様々な仕入原価の値上がり影響している。高齢化や生活環境変化の影響で職人の数が減り、納期が掛かるようになったことも要因の1つ。 ・受注量の減少に加え、電力料の値上げが大きく影響している。 ・米中間の悪化と日中間もぎくしゃくして中国への渡航手続も煩雑で苦慮している。 ・相変わらず自動車部品の生産が回復しない。
	<ul style="list-style-type: none"> ・人材の確保。 ・業務の適正化。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資材値上り、納入困難(一部材料) ・受注減少。 ・人手不足が慢性化。人件費増。